

平成 26 年度  
第 5 期中原区区民会議 第 2 回課題調査部会

日時 平成26年12月 8 日（月） 17：30～

場所 中原休日急患診療所 3 階大会議室

## 第5期中原区区民会議 第2回課題調査部会 摘録

- 1 開催日時：平成26年12月8日（月）午後5時30分～7時40分
- 2 場 所：中原休日急患診療所3階大会議室
- 3 出席者：成田部会長、松本副部会長、井上委員、園部委員、塚本委員、中森委員、仁上委員【委員7名】 【欠席】萩原委員  
（事務局）小野副区長、今井企画課長、江口係長、西山職員【企画課】  
岩下さん【コンサルタント（㈱カイト）】  
佐藤係長（環境局生活環境部廃棄物政策担当）
- 4 議題等
  - ・議題 検討テーマ「地域コミュニティ、みんなでまちをきれいに」に関する調査検討について
- 5 傍聴者 なし
- 6 会議内容

○成田部会長：グランツリーの素晴らしいイルミネーションを見ながら来ました。娘が小さいころは、暗く怖いので駆け足で通り過ぎたその同じ場所かと思うと感慨深く、温かいまちなみになりました。この部会でも地域に温かさを提供するような議論が進められればと思います。

### ・会議録確認委員の選任

部会名簿順により、第2回課題調査部会会議録確認委員は園部委員を選任。

### ・検討テーマ「地域コミュニティ、みんなでまちをきれいに」に関する課題検討について （進行：岩下（コンサルタント（㈱カイト））

まず、資料1「前回までの意見整理の確認」に基づき前回の課題調査部会の審議内容の振り返りを行い、続いて、資料2「課題解決策の検討に向けた整理」に基づき、これまでの意見を課題解決策の方向性、テーマ・課題、キーワード、ターゲット、などから分類し、一覧表に示して整理の概要説明があった。

次に、資料3「区内外の活動事例・施策等について」に基づいて、概要報告され、特に、項目1・2として掲載された「川崎市や中原区の廃棄物施策の現状や課題」について、環境局生活環境部廃棄物政策担当佐藤係長から説明があった。資料内容以外の主な説明事項は以下のとおり。

#### 【資料内容に付加された主な説明内容】

（環境局佐藤係長）

- ・市では「川崎市一般廃棄物処理基本計画 かわさきチャレンジ3R」という計画に基づき様々な施策を進めている。この計画の期間が平成17年度から27年度となっており、来年度で期間終了となる。28年度以降の計画を策定するため、環境審議会廃棄物部会での検討を始めており、より一層取組が必要な課題、社会状況の変化等を踏まえた新たな課題と分けて検討している。

- ・ 中原区は「家庭系ごみ1人1日当たりの排出量」は平成23年度から25年度まで毎年1位。「資源化率」は最新の平成25年度では多摩区に次ぐ2位で29%。
- ・ 本市は他都市と比べて生産年齢人口が比較的多く、それでも今後高齢化は着実に進む見込みであり、それに応じた施策が必要である。自分でごみを出せない方を対象とした直接収集事業「ふれあい収集」の対象者も毎年増えてきている。「ふれあい収集」は高齢者等の見守りも兼ねた形で実施しているが、今後さらに高齢者が地域に増えた場合、どこまで行政で担えるかという懸念がある。
- ・ 川崎市安心生活創造事業「集合住宅における見守りモデル事業」は健康福祉局の管轄事業である。
- ・ 現在、廃棄物部門、福祉部門等の横断的取組が必要との指摘を受け、検討・推進している。

【質疑応答・意見交換】

仁上委員 ふれあい収集の対象者は登録制か。

佐藤係長 市への申請に基づく登録制となっている。対象者のケアマネージャー等から申請を受け、申請者と当人の同席の下で市担当者との面談を経て登録されている。

仁上委員 (ふれあい収集利用者の) 1,425世帯というのは市全体の数字か。

佐藤係長 市全体の数字。区別の数字等は数値化していない。

松本副会長 (ふれあい収集を利用せずに、) ケアマネージャーがごみの排出を手伝っているケースも実際には多いのではないか。

佐藤係長 そういう方も相当数いると思われる。それがあからこそ、現状ではまだそれなりの対応ができていていると考えている。今後対象者が拡大した場合、どうやって対応していくのが課題である。

松本副会長 杖について、ごみ出しをしているような80代の高齢者の方もいる。まだ市にも登録はしていないということだった。町会で巡回し、ごみ出しが大変そうな人に話しかけたり、把握を進めたりしている。

塚本委員 再資源化以外に、ごみを減らすにはどのようなことが必要と考えているのか。

佐藤係長 「買すぎない」というがまず一つの鍵になるかと思う。本当に必要なものだけを買う、過剰包装を避けるなど。最近では安価でも、一定の質を持つ洋服等も増えており、着まわすよりも新しいものを買った方がコストだけを考えれば安かったりするが、見直していただき、意識を変えていきたい。何をすれば、どれだけごみが減るのか、抜本的な突破口をなかなか明確に打ち出せない部分があるが、一人一人の日々の小さな行動の積み重ねによって成果に差が出てくると考えている。

塚本委員 事業系ごみは別と考えてよいか。

佐藤係長 そのとおりである。資料中の数値は家庭系ごみの数値であり、事業系ごみは別である。

成田部会長 PR等にも取り組まれておられるが、実際にはどういった課題があるのでしょうか。

佐藤係長 分別のわかりにくさが課題だと考えている。例えば同じプラスチックでも、容器包装物であれば資源回収の対象となるが、そのもの自体が商品だった場合は回

収対象とはならない。同じサランラップでも他の食品等の商品のパッケージとして使われていれば回収対象だが、サランラップそのものを購入した場合は対象とならない。処理費用の負担を誰がするのかということでこのようなくみになってしまっている。国の制度上、いかんともしにくい部分もあり、非常にわかりにくくなってしまっている。

例えば、コンビニでアイスを買った場合についてくるスプーンを包む透明のビニールは包装ごみで、スプーンは普通ごみとなる。ミックスペーパーについては、本市では回収対象を広げていて、窓付き封筒や、ホチキスで留められている書類も対象としているが、逆にそれがわかりにくいというご意見もいただいている。小学校等での出前講座等も行い、理解促進に努めており、コツコツ続けていくしかないと考えている。

松本副会長 「プラスチック製容器包装」は確かにわかりにくい。ペットボトルもボトルとキャップと別にしなければならない。容器包装でないプラスチックが「プラスチック製容器包装」の日に捨てられていることは非常に多く、指導しているが、なかなか定着しない。集積所にしばらく溜まってしまっていることになりがちである。

佐藤係長 頭に「プラスチック」とついてしまっていることから勘違いをされている方が多いのではないかと思う。ネーミングを変更なども議論しているところであり、何か良いアイデアがあればぜひいただきたい。

#### 【全般的な意見交換】

塚本委員 NPO 法人小杉駅周辺エリアマネジメントの定例清掃活動では今回（平成 26 年 12 月実施）から、コースを少し変更してこすぎコアパークなどを取り入れた。マンション周辺は清掃業者等が入っていて、比較的きれいなこともあり、普段自分たちが行って使っている場所を清掃しようということで、コスギフェスタなどの会場ともなっている同パークを清掃した。駅周辺でも、ごみが多い場所を子どもたちに知ってもらおうとコースを考えている。

会員たちのマンションの中央に「グランツリー武蔵小杉」が今回オープン（2014 年 11 月）し、屋上庭園が子どもたち等の遊び場として開放されている。マンション内の公開空地よりも規制が緩く、自由に遊べる反面、既に荒れてしまっているような話もある。運業者等も地域貢献活動に関心が高いようなので、働きかけて、今後一緒に屋上庭園の清掃に取り組めないかと考えている。連携や協力相手を広げ、子どもたちにとっての遊びの場と清掃活動が結びつけばと考えている。

井上委員 （人形劇による生活習慣啓発事業は）人形劇団ひとみ座さんに入っていることが大きい。子どもにとって何が面白いのか、私たち素人が考えてもなかなかわからない面があるが、普段から人前で表現をされているプロの方々がやると、子どもたちの反応が全然違う。保護者等へのアンケート結果を見ても、「子どもたちが帰ってからも家庭で話してくれた」、「劇中の歯磨きの歌を歌いながら歯磨きを進んでするようになった」などの声がある。手作り感も大切にしたいが、目的・目標をはっきりさせて、プロの手を入れていくことも効果を上げるためには大切であり、予算を投資した価値もあったのではないかと。

ひとみ座さんは区内の井田地域に拠点を構えており、区の資源を活かした取組

としても良かった。日本で二番目に大きい、有名な人形劇団だが、もっと地域に浸透していきたいという思いがひとみ座さんの方にもあったようだ。ひとみ座さんを使えるということで、地域の特徴も出せた。中原区のアドバンテージであり、他の地域ではできないことだ。

事務局 (コンカウト) まちづくり関係の取組を考える時、どここの地域でも課題の一つとなるのが、「その地域らしさ」です。ひとみ座さんやフロンターレさん、またはグランツリーの業者さんなどとの連携した取組が実現できれば、それだけで中原区らしい、他にはできない取組になります。

成田部会長 フロンターレのサポーターも新たな世代につながってきていて、赤ちゃんの頃から、スタジアムに親について通っているようなお子さんも見かけるようになった。親子と一緒に好きなものがあれば、親子で一緒に取組につながる。グランツリーも親子で一緒に楽しめるような場、世代に渡った取組になれば、伝わる効果が大きくなるのではないか。

松本副会長 フロンターレさんはエコくらしこフェアを通じた環境の取組や、人形劇、市の広報物への選手の起用など様々な取組をされ、地域と繋がりを持たれている。小杉駅周辺では目覚ましく開発が進み、発展していて、新しい業者や住民が入ってきている。塚本委員の関わられている大人子ども一緒に清掃活動なども中原区の特徴が活かされた、発展性のある取組だと思います。

井田地区では地域の落語などのイベントが行われている他、井田小学校で毎年開かれるクリスマス会では、ひとみ座さんの人形劇や町会の人扮したサンタさんが出てくる企画を行っている。先週の日曜日には地域清掃ということで、自分たちが使っている学校をみんなできれいにしようと4～5町会の親子が集まって、落ち葉掃きなどの清掃を行った。私の町会では、毎月第一日曜日が地域の公園の子ども会、第3日曜日が町会の清掃日になっている。昭和30年代からずっと続いている。公園をきれいにしていると、たくさんの親子が公園に来るようになる。みんなが使っている公園をみんなできれいにしようという心構えがあると、少しずつでも進むと考えている。活動が継続させることが大切であり、慣れてくると負担感も小さくなる。子どもたちもそれが習慣となる。梅の木の剪定を日曜日にやっていたら、手伝いに来てくれる人が少しずつ増えたこともあった。町会の役員だけでやるのではなく、地域性が生まれてくる。地域で輪ができると良い。

仁上委員 分別は確かにわかりにくい面がある。正しい分別方法は、大人子どもに限らず伝えていかなければならないことだ。ペットボトルと一緒にシャンプーや洗剤の容器が出されていて、回収されずに残っているというような状況は、どこでもあるのが現状だ。わからないで出しているのだと思う。徹底的に広報・周知してわかりやすい形にしなければならない。

塚本委員 間違えて出されたものは収集されないということでしょうか。

仁上委員 そうです。収集される方もしっかりチェックされて、残していきます。

松本副会長 黄色い貼り紙の注意書きと共に残されている。

井上委員 でも、出した本人が引取りに来ることはまずない。

仁上委員 ごみが残ってしまっている集積所には通りがかりの人が空き缶などを捨ててい

ってしまい、だんだん汚くなるなど悪循環。余談だが、先週住吉地区の社会福祉協議会の研修で埼玉県所沢市のクリーンセンターを視察し、自動や手でごみを分別しているラインを見学した。川崎市にも同様の施設があると思うが、もっとそれを区民に紹介する機会があっても良いかと思う。分別の現場を見ると、その大変さや再資源化の大切さが実感できると思う。私自身、感心した。

佐藤係長 本市にも同様の施設がある。ミックスペーパーやプラスチック包装容器の関係は、臭気もあるということで、街中ではなく川崎区の埋立地の浮島に処理センターがある。再資源化の施設もあり、見学もできるが、中原区から行くには少し遠いのかなと思われる。子どもたちの社会科見学なども受け入れているのですが、まだまだ宣伝が足りないなと今のご意見を伺って改めて実感した。

良くご指摘を受けるのが「川崎市はいろいろ取組をしているのに、宣伝が下手」ということ。皆さんへの周知手段をもっとたくさん持てるように考えていかなければならない。フロンターレさんとも CC 等々力の取組などを通じて連携させていただいているが、そうした場や市民まつりなどでやっている取組の一つに「分別の釣りゲーム」があって、子どもさんたちだけでなくお母様方にも「知らなかった」など反響をいただいている。楽しみながら学んでいただく形で、毎回行列ができています。

成田部会長 子どもの方が、分別を学ぶ機会は多いようである。私もそうなのですが、古くから川崎市に住んでいるような方々は、無造作に捨てることが習慣化されてしまっていたり、しくみが変わるたびにどうしても理解が後追いになってしまっていたりする現状がある。ジャンパーの容器などはいつどこに出せば良いのか、本当に迷うところで、啓発については、どんな方でも一目で視覚的に理解できるような形が欲しいなと思う。また、中原区全体で考えた時には、やはりイベント的な発想も必要だと思う。

園部委員 いろいろな活動があり、参加している方は理解が進んでいる。参加しない方も大勢地域で生活しているわけで、そういう人たちにどうやって知っていただくか。その意味でも啓発 PR は重要だと思います。私は 70 代ですが、私の周りの同世代で考えますと、家事等に関わっている中で結構ごみは出しているのですが、地域のイベントや分別啓発の機会には参加していない方が多い。これだけ様々な活動があるのにもったいないと感じている。ある程度小さい地域単位で出前講座などをしていく必要があるのではないかな。手間はかかるが、少しずつつぶしていくしかないのかな、もしくは本当にわかりやすい掲示をつくって貼っていくしかないのかなと思う。

井上委員 一目でわかる分別ごみ箱ができないかなと思う。私自身はマンションに住んでいて、分別がしやすい環境にいる。なぜ、気にせずに捨ててしまうのか。「知らない」「知ろうと思わない」ということがまずあるのではないかな。自分も独身一人暮らし時代を振り返ると「忙しくて時間がない」「地域のことに目を向けない」という典型的な若者だったように思う。ごみ箱や集積所が非常にわかりやすくなっていれば、分けて出すようになるのかなと思う。できないというのであれば、それくらい用意しなければならないのではないかな。家の中で細かく分別しようとして

も、そんなスペースや時間はなかなか無いというのが率直な意見ではないか。

園部委員 スペースの問題もあると思うが、わかりやすい集積所はどこかの自治体の取組で見た記憶がある。

井上委員 極論を言えば、分別ごみ箱しか売らないくらいのことも考えてもよいのではないか。

成田部会長 分別は各家庭から始まるので。

園部委員 家庭で分別を細かくしていらっしゃる方もいるが、ごく一部。

中森委員 施設見学も全ての人が行けるわけではない。再資源化の大切さをアピールするための映像資料があっても良いのではないか。例えば、分別排出する前に一度きれいに洗浄するかしないかでどう違うのか、実際に見せていく。まず子どもから見せて、その親にも伝えていって、理解していただく。親子のコミュニケーションにもつながるような形が良いと思う。

分別については、多言語で広報資料が出ている。6か国語表記で写真入りのわかりやすい資料だが、実際にこれをやるとなると結構大変。やることによる効果や、やらないことによる影響を、勉強会などで伝えることも良いのではないかと思う。

事務局（コンサルタント） 前回の課題調査部会のまとめとして、啓発・PRの取組、既存の活動の周知や発展、例えば学校と地域の連携、イベント・キャンペーンなどの方向性が議論された。その他、ごみ以外でも「まちをきれいに」を考えていくことも何かあるかもしれない。

子どもを通じた取組について、いくつかご意見があったが、例えば分別について、大人同士で注意すると反発を受けてしまうが、子どもを通じれば、受け入れやすいということもある。子どもと一緒に取組はみんな笑顔になりやすいのかなと思う。また、中原区の財産や特徴を活かした取組、例えばフロンターレ、ひとみ座、グランツリーなどと連携した取組はニュースにもなりやすく、周りの人に「おっ！」と思ってもらえる機会が増えるのではないかと思われる。一方でどう習慣化、継続していくのかも大切です。フロンターレやひとみ座さんに負担が集中してしまつては、継続が難しくなってしまう恐れもあり、例えば人形劇だったら、地元の中学生や演劇が好きな子どもなどができるようにしていく工夫もあるかもしれない。

松本副部会長 ひとみ座が毎年地域の小中学生に劇を教えていて、その子どもたちによる発表会も開催されている。小中学生への人形劇指導をイベントなどでもやってもらえれば、親近感がわき、盛り上がるのではないか。

事務局（コンサルタント） 何か広報や普及のツールを提案する方法もあるかと思われる。川崎区民会議では、何期か前に高齢者や子どもと一緒に楽しめるかローリングゲームの提案をし、それを楽しむためのセットを数セット区で購入し、区内で講習会を開催したり、普及に努めているという事例もあった。例えば先ほどの分別釣りゲームを中原区版で定着させて、手法などを用意して、区内イベント等で普及させていく提案も考えられる。

仁上委員 子どもに参加してもらって啓発は確かに効果的だ。私の町会でも火の用心の絵を

子どもたちに描いてもらって貼りだすことがあるが、分別の絵を描かせてもよいかと思う。それを町会の掲示板や集積所にきれいに貼れば多少効果がありそう。井上委員 札幌市だったかと思うが、ごみの集積所をきれいに描く取組など行い、集積所をきれいにしたら、ごみ捨てマナーが良くなり、集積所が一層きれいになったというニュースを見たことがある。

事務局（コンサルタント） コンクールなども一つ提案になりそうですね。

成田部会長 NPO 法人小杉駅周辺エリアマネジメントさんなどの清掃活動ノウハウを活かして、区全体に広げていきたい。スポーツごみ拾いなどの要素も加えて、そこにふるんたくんや純情小町、キャラクターなどにも参加してもらえば盛り上がる。啓発のブースやゲームに参加してもらったかたに、参加賞を出す。地元の企業や商店にタイアップをいただいて、割引券など提供いただく。そんなお祭りのイベントが一回くらいあっても良いのかと思います。

事務局（コンサルタント） 啓発映像資料という意見も出たが、既存のものは何かあるのか。

佐藤係長 分別収集が始まった際に作った映像などはいくつかあったと思われるが、分別の方法などについて、そこまで細かいものではなかったかもしれない。

事務局（コンサルタント） わかりやすいインパクトのある目標設定が必要というご意見も出たが、中原区は既にごみ排出量や資源化量等は1位ということだったが、市の目標である資源化率 35%をどこの区よりも早く達成するなどは今後の目標になりうるかもしれない。イベントのタイトルなど、提案のネーミングなども実は結構大事。

成田部会長 スポーツごみ拾いは一度やってみたいと思う。

事務局（コンサルタント） 既存のイベントと絡ませてやることからスタートできるかもしれない。「分別釣りゲーム」は、ごみを釣って分別するのだと思うが、実際にはどのように行われているのか。

佐藤係長 バッジのついた様々なごみを、磁石のついた竿で釣り上げて、分別かごに分けて入れていくしくみ。生活環境事務所職員の手作りのセットがあり、単純なゲームだが、意外と盛り上がっていた。

松本副部会長 中原区では分別したものを貼りつけてパネルにする啓発キットがある。ただ、特に高齢者など見せてもらった時は覚えているが、すぐ忘れてしまうということもある。実物でどのように分別するか、子どもたちに体験してもらったり、点数制で競わせるのが良いと思う。分別法がわかりにくいものはある程度分かっているので、出題もそのあたりを中心にするれば良い。既存の冊子などには、実は細かい説明も全て書かれているのだが、なかなかそこまで見てもらえない面がある。ゲーム要素を入れれば、高齢者も子どもたちも楽しみながら、学べそうだ。

事務局（コンサルタント） ゲーム形式、体験が良いという意見が多いようだが、場はどうか。既存のイベントと絡めるのがよいのか、学校や保育園、町会などの場でやっていくのがよいか、またその他の場が考えられるのか。

井上委員 スポーツごみ拾いは面白そうだが、中原区内でどこでやるかというのと、実はちょっと迷う。フロンターレでも多摩川エコラシコとあって、選手とサポーターなどで多摩川の清掃活動を年1回やっているが、ごみがあまりなくて困っている。川の中に入って、一生懸命集めていたりしている。何をどう分別したらいいのかわから

ないという意味では、そこを逆手にとって、ごみ検定試験などを開催してイベント化したり、合格認定するなどはどうか。

事務局（コンサルト） 分別博士を地域でたくさんつくっていかうということ。

井上委員 学校教育の場等でも活かして、広げていけそう。認定のご褒美などについては、フロンターレも協力ができるかと思う。

事務局（コンサルト） グランツリーの屋上庭園も子どもたちの遊び場になっているということで、何か連携につながれば良いですね。

塚本委員 具体的な話にはなっていない。まだ私の個人的な思いつきの段階。

事務局（コンサルト） 何かきっかけがあるところから連携していくことが第一歩。地域の子どもたちが既にそこで遊んでいるということはつながりだと思う。

塚本委員 実はごみ拾いをしていて、最も多いのはたばこの吸い殻と空き缶。

事務局（コンサルト） スポーツごみ拾いのルールでは、ごみを計量してその重さを得点化するが、たばこの吸い殻は吸殻だけ別に集め、計量し、重さに対する得点割合が高い設定で行われることが多いようである。

塚本委員 ポイ捨てを辞めさせることは重要。難しいかもしれないが。

中森委員 きれいなところにはごみは捨てにくくなる。

仁上委員 中原区全体としては、以前と比べたらすごくきれいになってきている。集積所もほとんどがきれいなのですが、また汚いところがある。町内会を通じて、そういう点をアピールしたい。地域コミュニティがしっかりしている集積所はきれいで、独身独居者が多いなど、交流が少ない地域は集積所が荒れやすいように思う。集積所に関してはターゲットもある程度絞れそう。毎年、年末年始にごみがいっぱいになってしまう集積所がある。ちょっとまちを歩いているとどうしても気になってしまう。

塚本委員 地域に住んでいる人だけではなく、地域に勤めている人も含めて、みんなでまちをきれいにする。最近街中にごみ箱が減っていて、捨てる場所に困ることもある。公園のごみは今は市が管理しているのか。

松本副部長 公園のごみ箱は撤去されています。前はごみかごが設置されていたが、すぐにいっぱいになってしまうので、全て撤去という方針になった。

私が気になっているのは、道路等に網だけの形で設置された集積場所。ごみが歩道を占拠してしまい、車いすが通れなくなってしまう場合などがある。電柱などに網をかけている場所などもあるが、四六時中ごみが捨てられていることに繋がってしまっている場合がある。収集後は網も一度撤去される方が良いと思う。少し調べていただきたいと思う。

佐藤係長 生活事務所の方では把握、相談しているかと思う。集積所の管理は地元町内会にお願いしているところであり、そういった状態が続いているのは何らかの事情があるのかと思う。ご意見があったことは担当部署に伝えたい。

塚本委員 いくら禁煙といっても、必ず吸ってしまう人がいる。禁止にするなら、同時にどこかに喫煙所を設けるように、ごみについても、公園からごみ箱を撤去するなら、ここに捨ててくださいというような場所が何かあればと思う。

井上委員 公園のごみについては持ち帰りが今の基本方針かと思う。

松本副会長 持ち帰りのお願い掲示はどここの公園にも出されている。タバコのポイ捨てはどここの商店街も悩んでいて、本当になかなか無くならない。

塚本委員 マクドナルドのごみ箱は何をどこにどう捨てるのか、非常にわかりやすいシステムになっている。ごみの種類が少ないこともあると思うが、これはこう捨てるという見本ステーションがどこかにあると良いと思う。場所や予算も大変だと思いますが、例えばコアパークなどの一角にできないか。

中森委員 ブラジルワールドカップで、日本の応援団が試合後に清掃活動をしたことが、ニュースになり、世界中に注目された。あのような広報が何かできないか。

井上委員 非常にインパクトがあった。

松本副会長 住んで良かった中原区。住み続けたい中原区にしたい。外から来る人が見てもきれいなイメージをもたれるようにするには、まず住んでいる人が意識してモラル・マナーを守ることが必要である。

中森委員 メディアにとりあげていただいて気運を盛り上げていくこともうまうましていきたい。

松本副会長 小さなことから、積み上げていく必要がある。

事務局（コンサルト） あと2回の部会でまとめていくためには、そろそろどの取組にするか絞り込み、手段や対象、目的などについて具体的な掘り下げた検討を進めていく必要がある。

井上委員 ごみに意見が集中してきたのは、関心も高く、道が見えやすいからだと思う。その中で分別のわかりにくさの解消、未参加の人達に届かせる方法という点に意見が集中していたと思う。

事務局（コンサルト） 資料4で、提案をまとめる書式の案として、5W1H方式のシートをお示ししている。事務局でもこれまでの皆さんの意見をこのシートに基づき整理してみるのので、各委員さんからも提出をお願いしたい。これまでの議論では出なかった自由な新たな発想でも良いかと思う。

事務局 商店街や企業との連携という視点もぜひ取り入れたい。例えばイベントやキャンペーンでも、区内の商店街を順番にまわって展開し、活動を普及させて、区全体の意見を高めていくようなやり方も考えられると思う。

人形劇による啓発事業は非常によい取組だと思われる。発展させて、ごみ減量や美化につなげるPR・啓発も考えやすそうである。

※ここで今後のスケジュール、進め方を改めて確認。資料4の書式を基にした提案シートを、各委員1枚以上、提出することを宿題とした。

塚本委員 既存の取組をただ一つ増やすような流れはナンセンスだと思う。何か新たな啓発やPR、取組を検討したい。

事務局 今日意見も出たように、既存の取組、企業との連携なども実はかなりやっていて、成果もあがってきている。ただ、まだ参加者が限られていて、何をやっているのか伝わっていない。取組と取組の連携が行われていないのが現状ではないか。

井上委員 PRが下手ということはやはり一つありそうだ。新しいことを考えるのか、既

存の取組をつなげていくようなことを考えるのか。まちをきれいにすることを広くとらえていく方向性もある。

事務局（コンサルト） わかれば良いが、例えば川崎市の目標資源化率 35%という数値はどのような由来があるのか。

佐藤係長 平成 17 年度当時に最初のごみ減量施策を打ち出した際は、4つの処理センターで処理していた焼却ごみを一つ減らして3つの処理センターで処理できるようにという目標があった。実現すればその運営費用がまるまる浮くことになる。それに基づいて 13 万トンのごみ減量という目標が設定されたが、その後の社会情勢の変化などで、ごみ減量だけでなく再資源化がクローズアップされてきた経緯があり、途中からごみ量から、再資源化率に目標が変更された。全体的には、発生抑制がまずあり、出てしまったものも分別、再資源化をしようという流れになってきている。

事務局 PR もかなりしているのだが、受けとる側の興味がないと、いくら手段や場を増やしても届いていない、意識されないという現状もあるのではないか。その意味ではどうやって意識づけするのか、PR だけでなく啓発の部分が重要になりそうだ。

## 7 その他

区民会議交流会のお知らせについて

次回の日程について、次回の日程について 2 月 2 日（月）午前 10 時からを確認した。

## 8 閉会

部会長より閉会宣言

以上